紙上採録 長寿・子育て・障害者基金事業報告会 VOL.2 ［主催］独立行政法人福祉医療機構

地域から始めましょう、福祉社会づくり

独立行政法人福祉医療機構では、地域社会で福祉活動に取り組む団体への助成支援を行っています。今年度は、8月7日の福井県を皮切りに、26日に山形県、28日に沖縄県で「長寿・子育て・障害者基金事業報告会」が行われました。今回は、山形県と沖縄県で行われた専門家による講演と、助成を受けた団体による取り組みを紹介します。

※福井県で行われた報告会の模様は、9月8日付本紙朝刊広告特集紙面で紹介しました。

山形

基調講演

「民間の助成金は財の山 ～金は〝やる気〟についてくる～」

社会福祉法人共生理事 佐藤博幸さん

助成金は、申請手続きなどに手間と時間がかかりますが、新規事業を立ち上げたり、備品をそろえたり、調査研究などを進めたりするうえでとても有効です。でも、申請すれば必ず受けられるというわけではありません。

助成金は、助成する側が推進する方針に沿った事業に対して支給されるお金です。自分たちのやりたいことが、助成する側の方針と合致していなければなりません。ですから、方針の意図を正確に読み取り、趣旨に沿う計画であることを明確に示す必要があります。

それから、助成金を使って何をしたいのかを明確にし、それによって今後どのような展開が見込めるのかを具体的に示す必要があります。売り上げをいくらまで伸ばしたい、イベントにこれだけの人数を集めたいなど、できるだけ数値化して説得力をもたせるといいでしょう。

助成金の内容は改正されることも多いので、常に情報収集するようにしてください。そして、気になるところは書類を取り寄せ、電話で事前に相談をするといいでしょう。申請書の内容を団体内部で共有しておくことも大切です。助成団体から問い合わせがあったとき、「担当者しかわかりません」というのでは熱意は伝わりません。

採用されなかったら理由を聞き、あきらめずに何度でも挑戦するといいと思います。助成金は、得られたお金で活動を活性化させるのはもちろんですが、申請過程で自分たちが何をやりたいのかを見つめ直すきっかけにもなるからです。

助成事業の報告

1 障害者駐車場全国統一モデル普及事業

社団法人全国脊髄損傷者連合会山形県支部 発表者／支部長 吉田七百子さん 副支部長 小林光雄さん

高齢者・障害者福祉基金

私たちは、駐車場の一部を青色塗装して障害者用のスペースを確保する「障害者駐車場全国統一モデル普及事業」を進めています。病院、スーパー、道の駅など利用者の多い所からはじめ、いまでは県が管理するほとんどの駐車場に設けられるようになりました。学校の駐車場では学生にも参加してもらうなど、若い世代にも啓蒙できたのはよかったと思います。また、これまで施設ごとに表示が異なっていた障害者用のスペースを青色塗装に統一することで、より認知されやすくなったという利点もあります。加えて、活動を全国に広げるために、脊髄損傷者連合会の全国大会も山形県で開催しました。一日も早い制度化を目指して活動を継続していきたいと思っています。

2 日本語教材「子育て日本語表現」作成事業

特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ 発表者／会員 古澤弘美さん

子育て支援基金

日本人男性と結婚した外国人女性の多くは、子どもにどんな日本語で話しかけたらいいかわからないと悩んでいます。そこで、私たちは子育てに必要な日本語をテキストにし、全国の日本語教育機関に提供しました。

テキストは、単語、モデル会話、文法、練習問題などから成り、すぐに使えるフレーズで構成されています。全部で300部印刷し、全国100カ所に無料配布しました。利用者からも好評で、「次のテキストはいつ出るのか」と問い合わせを受けるなど、かなりの反響をいただきました。学会から発表の依頼を受けたり、マスコミでも紹介されるなど、予想以上の手応えを感じています。この経験を生かし、よりよい日本語教育の環境を整えていきたいです。

報告会を振り返って

●佐藤博幸さん
NPOに求められるのは、規模だけではありません。自分たちの地域で何が必要とされているのかを敏感に感じ取り、実行に移す。そのような団体の活動こそ貴重なのだと思います。そういう意味でも、活動を後押しする助成金の価値はさらに高まっていくといえるのではないでしょうか。

●吉田七百子さん
多くの方の理解と協力、そして助成金があったからこそ活動が続けられました。無関心だった人たちが理解を示してくれるようにもなり、成果を実感しています。

●小林光雄さん
助成金の申請には、意欲と行動が大事です。もらってから何をするかではなく、きちんと準備をして申請するのが、事業を成功させる秘けつだと思います。

●古澤弘美さん
以前はメンバーが個々に進めていた研究も、テキストが出版できるようになったことで、一丸となって進めることができました。これも助成金を受けて良かった点の一つです。

報告会を聴講して

・先駆的な事業を軌道に乗せていくのに、助成金が極めて力になったことが伝わってきました。（50代男性・山形県）

・日の当たらない部分への活動に頭が下がる思いです。助成金の位置づけや心構えなど、大変参考になりました。（30代男性・山形県）

沖縄

基調講演

「市民活動団体の地域での役割と運営のあり方」

特定非営利活動法人日本NPOセンター理事・事務局長 田尻佳史さん

市民活動への期待が高まっている背景には、一人ひとりの生き方が多様化してきたことがあげられます。いかに個人を大切にしていくか。制度化されていない「社会的課題」に目を向け、柔軟にサービスを提供できるNPOのような市民活動は、今後ますます重要になってくるでしょう。

NPOの財源は、大きく四つに分けられます。一つめが会員からの「会費」、二つめが自分たちの行動で収益をつくる「自主事業」、三つめが賛同者からの「寄付・助成」、四つめが依頼された仕事の対価である「受託事業」です。このうち、「会費」と「自主事業」は安定性が高いのですが、「寄付・助成」と「受託事業」は、変動性の高い財源です。

組織を維持させるために大切なのは、安定性の高い財源です。それらを確保するために助成金を活用し、会員数を増やしたり、自主事業を拡大するといった考えを持つ必要があるでしょう。

もし会員が増えなくて悩んでいるとしたら、どこに原因があるか考えてみてください。開かれた活動をしていますか？ 共感や支援の輪を広げる「市民性」、課題を共有し合う「当事者性」、専門的な知識を生かす「専門性」のバランスはとれていますか？

これからの市民活動は、組織と組織、あるいは組織と行政、企業との「協働」がキーワードになると思います。助成金も協働の一つのかたちですが、これは組織が自立していてはじめて成り立つものです。ぜひ、しっかりとした基盤をつくりあげ活動してください。

助成事業の報告

1 子育ち支援プロジェクト事業

特定非営利活動法人うてい～らみや 発表者／文化部長 田中美也子さん 事務局長 富永智子さん

子育て支援基金

子育ての諸問題は、地域文化が消えつつあることと深くかかわっているのではないかという視点から、沖縄の精神文化であるわらべうたの採取と伝承を通して、古来からの知恵を子育てに生かす「子育ち支援プロジェクト事業」がスタートしました。

助成金では、首里のわらべうたのCD付きテキストを作成した他、研究会と講座を各24回ずつ、講演会を5回、わらべうた伝承者との交流ツアーを1回行いました。わらべうたを見直す研究会も発足し、ラジオ番組でも毎週1曲ずつ放送されるなど、私たちの活動をきっかけに新たな動きも見られるようになりました。

沖縄の子育て文化は、世界に誇れるものです。いつか全国にも伝えられればと願っています。

2 高齢化社会における聴覚・補聴相談及び磁気ループ等の社会整備事業

特定非営利活動法人沖縄県難聴福祉を考える会 発表者／附属診療所相談医（耳鼻咽喉科専門医・琉球大学名誉教授） 野田 寛さん

高齢者・障害者福祉基金

難聴になるとコミュニケーションがとりにくくなり、社会や家族から孤立してしまいます。すると、生きる意欲がなくなるなど、さまざまな弊害が起こります。そのような事態を避けるために、私たちは老人クラブなどに出向いて耳の健康や補聴器に関する講話、聴力検査、個別指導を行う他、ある一定エリアでの補聴器の聴こえをよくする集団補聴（磁気ループ）の普及に力を入れています。

高齢者施設をまわって補聴器の話をすると、セールスと間違えられることもありますが、助成事業ということで公平性が高いと信頼してもらえたのは大きな成果でした。今後も難聴者に対する社会のバリアフリー化を目指し、さまざまな提案を行っていきたいと思っています。

報告会を振り返って

●田尻佳史さん
社会を変えるというメッセージをもって活動することは大切ですが、自分たちの活動しか見えていないと壁にぶつかることもあります。これからのNPOは、従来の縦割り組織ではなく、すぐそこにいる別の団体にも目をやるなど横のつながりを意識することで、新たな活動を生み出すことが求められていると思います。

●田中美也子さん
助成金で作ったCDはすべて配布したので、今度は商品化して収益につなげられるようにしたいと考えています。今日のような活動報告の場を増やし、開かれた場にしていきたいと思います。

●富永智子さん
別の分野で活躍している団体の話を聞けたのは有意義でした。自分たちの活動を振り返るいい機会になりましたし、次へのモチベーションにつながりました。

●野田 寛さん
15年前から活動していますが、助成金をいただいたことにより弾みがつきました。これからも難聴者の声に耳を傾け、社会の理解を得られるよう努力して参ります。

報告会を聴講して

・NPOの社会的意義を改めて認識しました。（30代男性・沖縄県）

・内輪で自己満足に終わるのではなく、企業経営のようなとらえ方が必要だと思いました。（40代女性・沖縄県）

WAM基金

地域を支える福祉活動を応援します

長寿・子育て・障害者基金

平成21年度 助成事業の募集

長寿社会福祉基金
高齢者・障害者福祉基金
子育て支援基金
障害者スポーツ支援基金

募集期間：平成20年9月1日より10月31日まで（当日消印有効）

募集対象事業者：社会福祉法人、公益法人、特定非営利活動法人、法人格のない任意に設立された団体

特別分助成 平成20年度採択件数 75件
独創性または先駆性、普遍性のある事業を対象に、1事業年度500万円を限度として助成します。
※複数年助成（原則2か年）を含みます。

地方分助成 平成20年度採択件数 696件
地域の実情に即したきめ細かな事業を対象に、1事業年度200万円を限度として助成します。
※複数年助成（原則2か年）及び過去に助成した事業のうち、さらに発展させることが望まれる事業を抽出した地方分モデル事業助成を含みます。

独立行政法人福祉医療機構
〒105-8486 東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス9階
基金事業に関するお問い合わせ先：基金事業部 振興課
●Eメール sinkoka@wam.go.jp
●電話 03（3438）9946 ●FAX 03（3438）0218
ホームページからより詳しい情報、募集要領などがダウンロードできます。
http://www.wam.go.jp/wam/ WAM基金 検索